

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

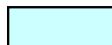
建物名称	(仮称)オーヴィジョン金田	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	---------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.2 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.6 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2014年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.0
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.4
	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 3.6
	Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 3.1
特になし	特になし
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.3
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.5
共用部・住戸内共に主要な照明はLED照明を採用した。また、給湯器を潜熱回収型を採用することで省エネルギーに配慮した。	LR2/ 1.1 節水 スコア 3
	流し台等の水栓は節水コマ等を採用し、便器も節水型とし水資源に配慮した。
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.7
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2
	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 3
	LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 3
特になし	道路沿いへ植栽帯を設け、緑豊かな周辺環境に配慮した。
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮	主な指標
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3
共用廊下・住戸内は段差を無くし、バリアフリーに対応した。	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級
	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEIm値、住宅: -
	外構緑化指數 28 %
	建物緑化指數 0 %



: 入力欄



: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

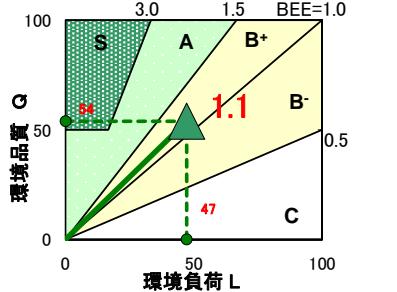
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オーヴィジョン金田	階数	地上14F
建設地	福岡県北九州市小倉北区金田一丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	260 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2022年7月4日
敷地面積	1,683 m ²	作成者	中尾 俊平
建築面積	571 m ²	確認日	2022年7月4日
延床面積	5,855 m ²	確認者	中尾 俊平

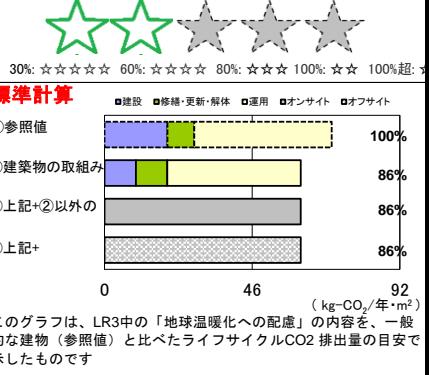
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 

S: ★★★★★ A: ★★★★ B: ★★★ B+: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



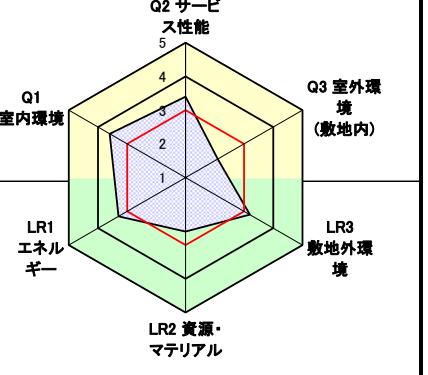
標準計算

建設	修繕・更新・解体	運用	オンライン	オフサイト
①参照値	100%			
②建築物の取組み	86%			
③上記+②以外の	86%			
④上記+	86%			

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもの

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境				Q2 サービス性能			Q3 室外環境(敷地内)		
Q1のスコア= 3.6				Q2のスコア= 3.4			Q3のスコア= 2.1		
音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境	機能性	耐用性	対応性	生物環境	まちなみ	地域性・
3.5	3.5	3.5	4.0	3.9	3.0	3.1	2.0	2.0	2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー				LR2 資源・マテリアル			LR3 敷地外環境		
LR1のスコア= 3.3				LR2のスコア= 2.6			LR3のスコア= 3.1		
建物外皮の	自然エネ	設備シス	効率的	水資源	非再生材料の	汚染物質	地球温暖化	地域環境	周辺環境
4.0	3.0	3.3	3.0	3.0	2.4	3.0	3.5	3.0	3.2

3 設計上の配慮事項

総合

空気住環境、機能的な空間作り、敷地内住環境、省エネルギー、敷地外環境への配慮にそれぞれ取り組んでおり、低炭素社会の実現に努めている。

その他

特になし

Q1 室内環境

全住戸は複層ガラスを使用、外壁は断熱材を吹き付けた防露壁とした。
また、シックハウス対策はF☆☆☆☆材料を使用した。

Q2 サービス性能

共用廊下・住戸内は段差を無くし、バリアフリーに対処した。

Q3 室外環境(敷地内)

周辺に配慮した建物高さ、配置を行っている。
また、道路沿いへ植栽帯を設け、緑豊かな周辺環境に配慮した。

LR1 エネルギー

共用部・住戸内共に主要な照明はLED照明を採用した。
また、給湯器を潜熱回収型を採用することで省エネルギーに配慮した。

LR2 資源・マテリアル

流し台等の水栓は節水コマ等を採用し、便器も節水型とし水資源に配慮した。

LR3 敷地外環境

光害(漏れ光など)によって周囲に悪影響を与えないよう、外灯等の照明器具は設置位置や高さに配慮した。
また、外灯の点灯・消灯はタイムスケジュール制御とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)オーヴィジョン金田

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目	スコア						
Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境							
1 音環境							
1.1 室内騒音レベル	—		4.0	0.15	3.5	1.00	3.5
1.2 遮音			3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能	T-2サッシを採用[A-35:鋼製建具表]	5.0	0.50	4.0	0.50		
2 界壁遮音性能	—	3.0	1.00	5.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	LL-45の床組みを採用[A-10:仕上表(2)]	3.0	—	3.0	0.30		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	LH-50の床組みを採用[A-10:仕上表(2)]	3.0	—	4.0	0.20		
1.3 吸音	—	3.0	—	3.0	0.20		
2 溫熱環境			2.6	0.35	3.7	1.00	3.5
2.1 室温制御			3.0	0.50	4.0	0.71	
1 室温	—	3.0	0.63	—	—		
2 外皮性能	断熱性能等級4[A-4:特記仕様書(4)]	3.0	0.38	4.0	1.00		
3 ゾーン別制御性	—	3.0	—	—	—		
2.2 湿度制御			1.0	0.20	3.0	0.29	
2.3 空調方式			3.0	0.30	—	—	
3 光・視環境			3.0	0.25	3.7	1.00	3.5
3.1 曜光利用			4.2	0.30	3.4	0.50	
1 曜光率	共用部:29.63%、住居部:5.67%[曜光率算定図]	5.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口	—	3.0	—	1.0	0.30		
3 曜光利用設備	—	3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策			3.0	0.30	4.0	0.50	
1 曜光制御	庇及びカーテンにより制御[A-17:断面図(1)]	3.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度			1.0	0.15	—	—	
3.4 照明制御			3.0	0.25	—	—	
4 空気質環境			4.2	0.25	4.0	1.00	4.0
4.1 発生源対策			5.0	0.60	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用[A-10:仕上表(2)]	5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気			3.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量	—	3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能	—	3.0	—	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理			—	—	—	—	
1 CO ₂ の監視	—	3.0	—	—	—		
2 喫煙の制御	—	3.0	—	—	—		
Q2 サービス性能			—	0.30	—	—	3.4
1 機能性			2.8	0.40	4.2	1.00	3.9
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	—	3.0	—	3.0	—		
2 高度情報通信設備対応	Gbitクラス対応[E-16:TEL, LAN系統図]	3.0	—	5.0	1.00		
3 パリアフリー計画	—	3.0	1.00	—	—		
1.2 心理性・快適性			3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観	—	3.0	—	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース	—	3.0	—	—	—		
3 内装計画	—	3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理			2.5	0.30	—	—	
1 維持管理に配慮した設計	—	2.0	0.50	—	—		
2 維持管理用機能の確保	—	3.0	0.50	—	—		
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30	—	—	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	—	—	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80	—	—		
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20	—	—		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.6	0.30	—	—	
1 転体材料の耐用年数	劣化対策等級2[A-4:特記仕様書(4)]	4.0	0.20	—	—		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	3.0	0.20	—	—		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—	3.0	0.10	—	—		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10	—	—		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上にB以上を使用[P-03:特記事項・凡例・樹リスト]	5.0	0.20	—	—		
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20	—	—		
2.4 信頼性			2.4	0.20	—	—	
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20	—	—		
2 給排水・衛生設備	—	2.0	0.20	—	—		
3 電気設備	—	3.0	0.20	—	—		
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	—	—		
5 通信・情報設備	—	1.0	0.20	—	—		

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	階高=2.91m[A-17:断面図(1)]	3.6	0.30	3.1	1.00	3.1
	2 空間の形状・自由さ	-	-	3.0	-	4.0	0.60	
	3.2 荷重のゆとり	-	-	3.0	-	2.0	0.40	
	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性	クーラースリーブを設置している[A-10:仕上表(2)]	3.6	1.00	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	-	4.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	配管を使用する[E-03:幹線系統図、E-12:照明器具姿図]	3.0	0.20	-	-	-	
	4 通信配線の更新性	配管を使用する[E-16:TEL,LAN系統図]	5.0	0.10	-	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	-	5.0	0.10	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	-	3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)	-	-	3.0	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	-	-	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	-	-	-	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮	-	-	-	2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	-	-	2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-	-	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性	-	-	-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー	-	-	-	0.40	-	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱対策等級4[A-4:特記仕様書(4)]	-	-	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	-	-	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	-	-	-	3.3	0.50	-	-	3.3
4 効率的運用	-	-	-	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価	-	-	-	3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	-	3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	3.0	-	-	-	
集合住宅の評価	-	-	-	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル	-	-	-	0.30	-	-	-	2.6
1 水資源保護	-	-	-	3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水	-	-	-	3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	-	-	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-	-	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	-	-	-	2.4	0.60	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	-	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	-	-	3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避	-	-	-	3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	-	-	-	3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	-	-	-	3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-	-	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境	-	-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	-	-	-	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮	-	-	-	3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	-	-	-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-	-	-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	-	-	3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-	-	-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-	-	-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-	-	-	3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮	-	-	-	3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	-	-	-	3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-	-	-	3.0	1.00	-	-	
2 振動	-	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	-	-	-	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-	-	-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-	-	-	3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-	-	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制	-	-	-	4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」を過半を満たしている	-	-	5.0	0.70	-	-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	-	-	3.0	0.30	-	-	